

① 指導に対する意識

1-1 教員の指導観

10年に比べ、「強制的な学習」より「自発的な学習」を重視する小・中・高校教員が増加。

小・中・高校教員とも「自発的に学習する意欲や習慣を身につけさせること」を重視する教員が増加した。特に、高校は10年の60.2%から74.3%となり、小・中学校より増加幅が大きい(図1-1A)。

また、子どもの「可能性を支援する」か「教え訓練する」かをみると、小・中学校では、97年・98年～10年までは子どもの学びに対して、教員の強制的・教え訓練志向が強まっていたが、16年の結果をみると、子どもの自主性・可能性支援を重視する割合が増加に転じたことがわかった。高校も10年に比べ、子どもの「可能性を支援する」教員が増えている(中学校39.0%→44.7%、高校41.9%→46.2%)(図1-1B)。

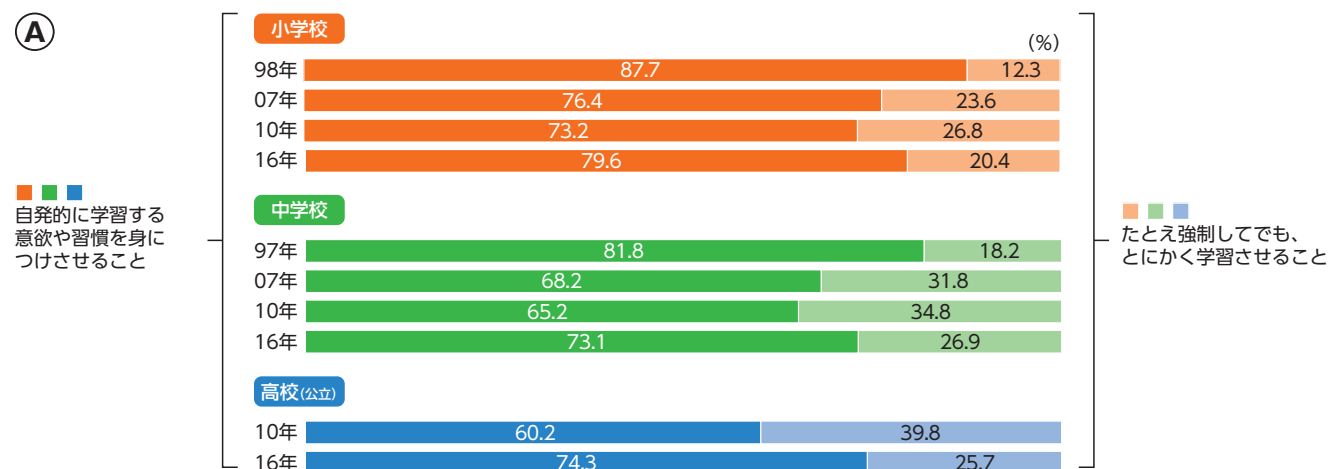
10年に比べ、「楽しく学べる授業」を重視すると回答した教員の割合は小・中学校では微増であるのに対して、高校では、5.5ポイント増加し、小・中・高校ともほぼ5割～6割弱の教員が「楽しく学べる授業」を重視している(図1-1C)。

教職経験年数別にみると、小・中・高校とも、教職経験年数が短い教員ほど「楽しく学べる授業」を重視する傾向が強い(図1-2)。

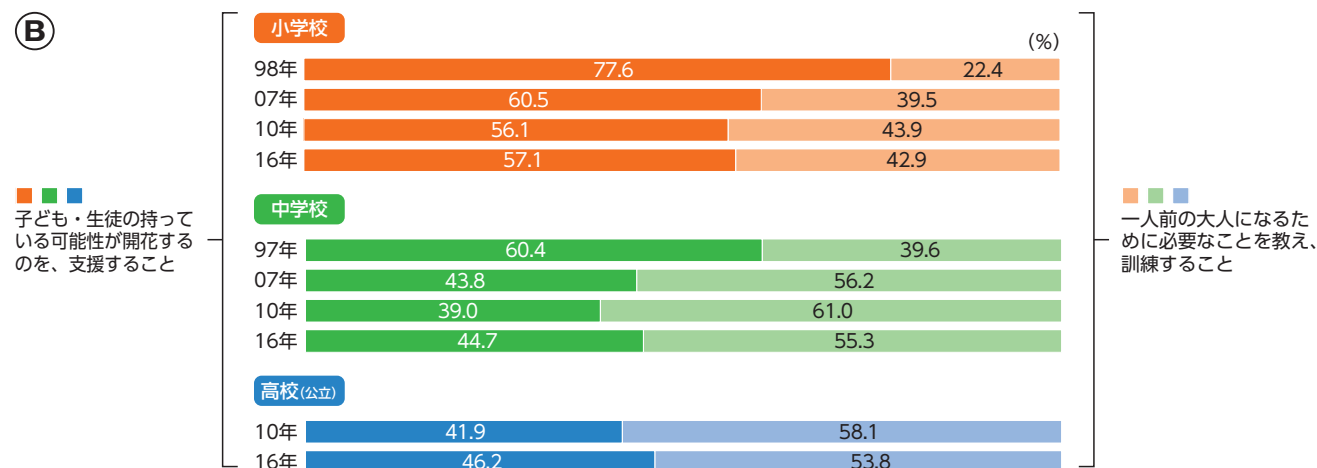
Q あなたは、授業や生活指導・生徒指導の面で、どのようなことを大切にしていますか。各ペアについて、あなたがあえていえば重視していると思うほうの番号1つに○をつけてください。

図1-1 教員の指導観①(経年比較) **小学校** **中学校** **高校** **教員**

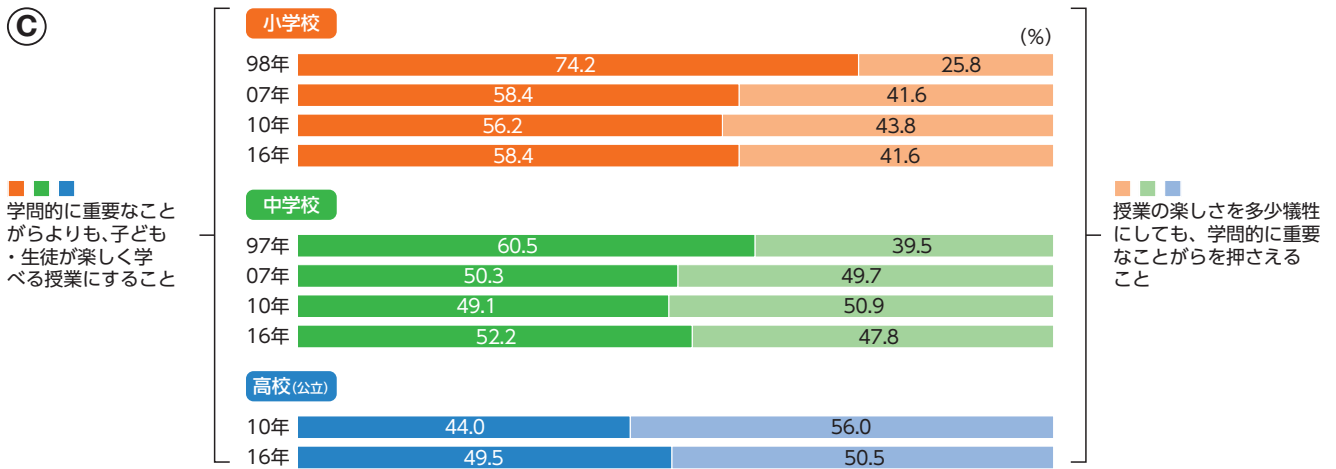
① 自主性・可能性支援が訓練重視か



中学校・高校では「教え訓練する」より「可能性を支援する」傾向が強まっている。



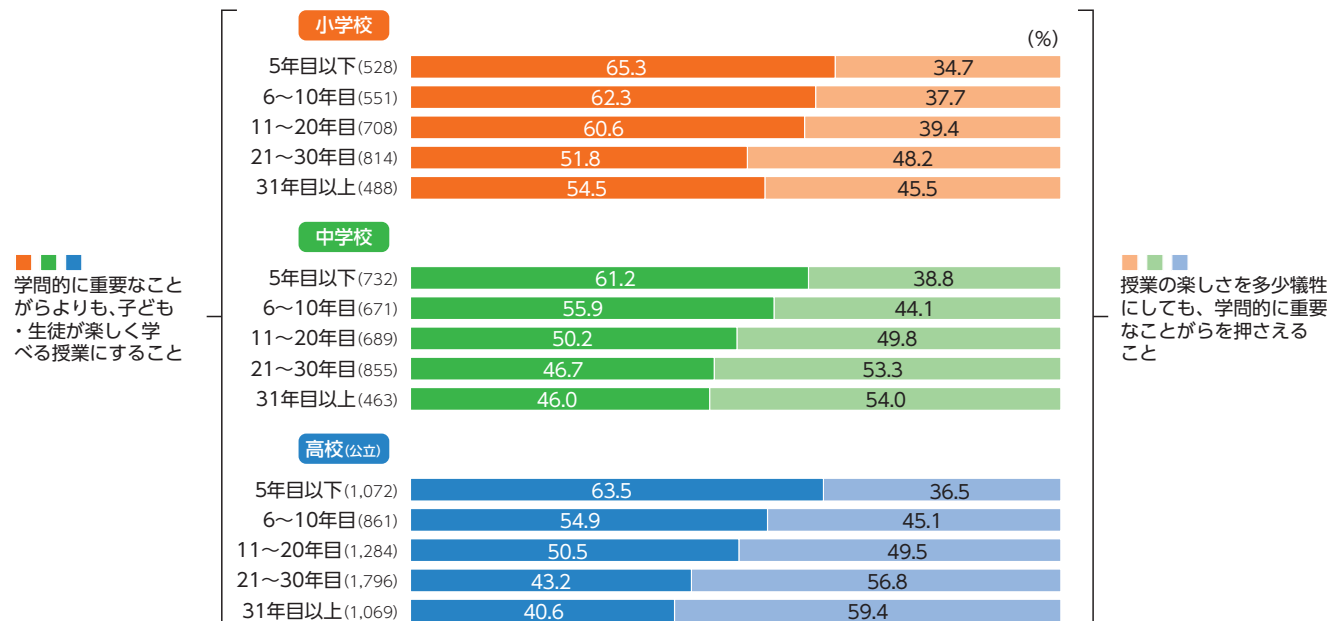
高校で「楽しく学べる授業」を重視する教員が4割強から5割に増加。



注1) 質問文は小学校では「授業や生活指導の面で」、中・高校では「授業や生徒指導の面で」としてたずねている。
 注2) 数値は無回答・不明を除いて算出している。図1-2も同じ。

教職経験年数が短い教員ほど「楽しく学べる授業」を重視。

図1-2 教員の指導観 ③ (教職経験年数別) **小学校** **中学校** **高校** **教員**



1-1 教員の指導観

「得意な教科や領域の学力を伸ばすこと」を重視する高校教員が大幅に増加し、6割弱となる。

「不得意な教科や領域の学力をつけさせること」か「得意な教科や領域の学力を伸ばすこと」のどちらを重視するかをたずねたところ、小・中学校では07年からあまり大きな変化がみられず、小学校教員の7割、中学校教員の6割は「不得意な教科や領域の学力をつけさせること」と回答した。高校では、「不得意な教科や領域の学力をつけさせること」を重視する教員は10年には5割を超えていたが、16年には4割に減少した。一方で「得意な教科や領域の学力を伸ばすこと」の傾向が強まり、6割弱となった(図1-3㉔)。

また、「どの子にもできるだけ学力をつけさせること」を重視している小・中・高校教員は8～9割である。ただし、高校では、「勉強が苦手な子どもには、別の能力を伸ばしてやること」を重視する教員が増えている(10年9.7%、16年15.7%)(図1-3㉕)。

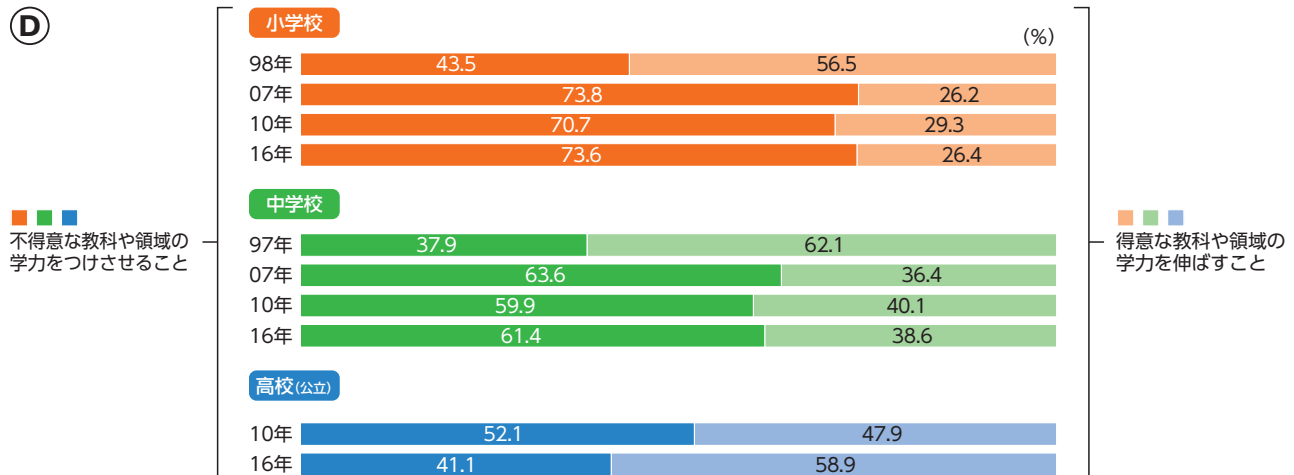
中・高校教員に「受験に役立つ知識・スキルを教えること」か「上級学校や社会に出てから役立つ内容を教えること」かをたずねたところ、中・高校教員とも後者を重視する傾向は10年と変わらないが、高校では、その傾向がさらに強まっている(10年56.7%→16年62.9%)(図1-3㉖)。

高校について、さらに入学時学力水準別でみると、A・Bグループは「受験に役立つ知識・スキルを教えること」を重視し、C・Dグループは「上級学校や社会に出てから役立つ内容を教えること」を重視する傾向である(図1-4)。

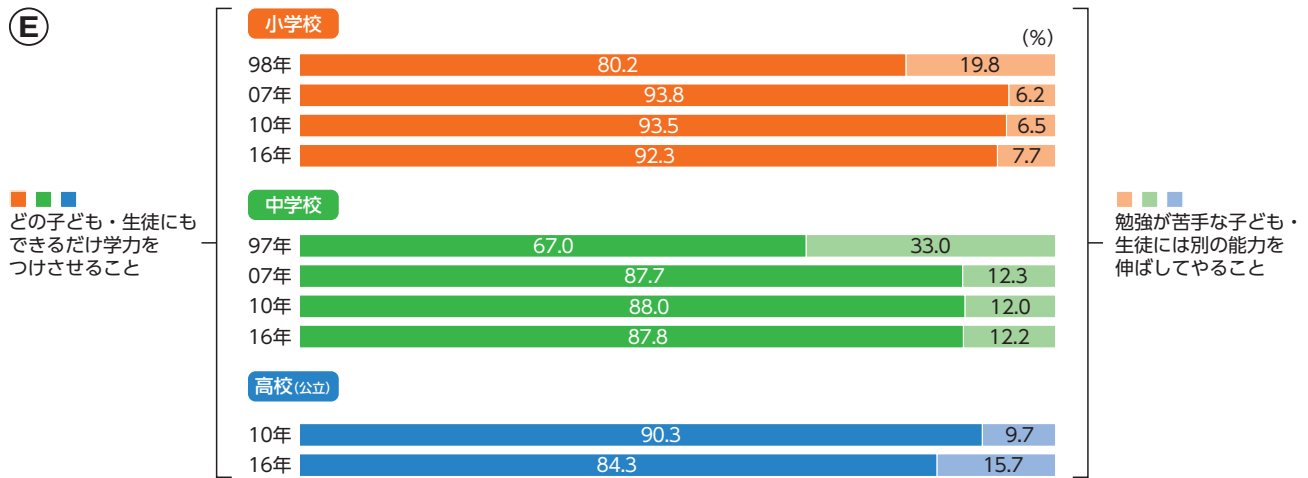
Q あなたは、授業や生活指導・生徒指導の面で、どのようなことを大切にしていますか。各ペアについて、あなたがあえて言えば重視していると思うほうの番号1つに○をつけてください。

図1-3 教員の指導観②(経年比較) **小学校** **中学校** **高校** **教員**

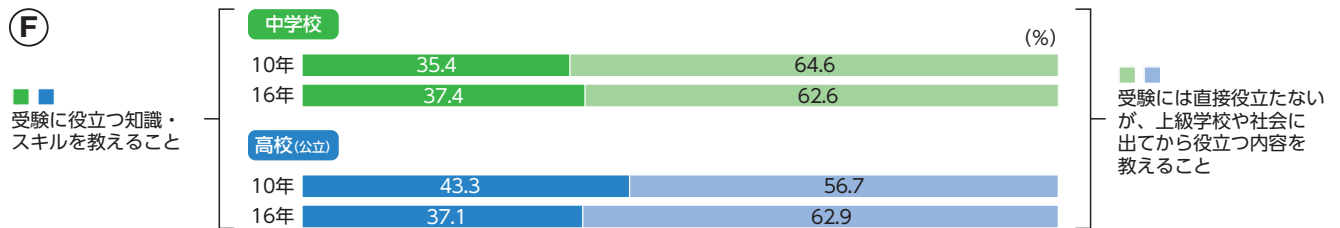
②教育内容、学校・教員の役割



「どの子どもにもできるだけ学力をつけさせること」を重視する小・中・高校教員は8～9割。

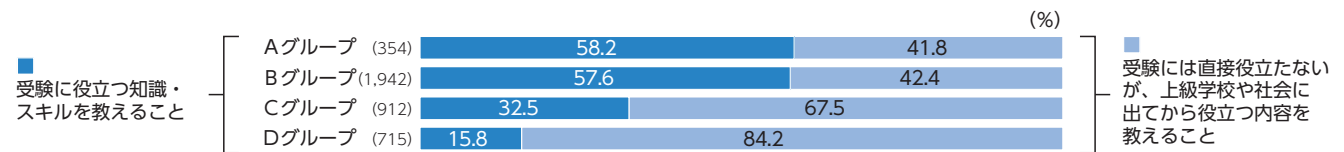


高校では「上級学校や社会に出てから役立つ内容を教えること」を重視する傾向が強まっている。



注1) 小学校にはたずねていない。
 注2) 数値は無回答・不明を除いて算出している。図1-4も同じ。

図1-4 教員の指導観 ⑥ (入学時学力水準別(公立普通科)) 高校 教員



注) 入学時学力水準は、「貴校に入学した平均的な生徒の中学校時代よりの成績(評定平均)」に対する校長回答による。評定平均はAグループ4.5～5.0点、Bグループ3.5～4.0点、Cグループ3.0点、Dグループ1.0～2.5点として公立普通科について分類した。

1-2 児童・生徒に身につけている力

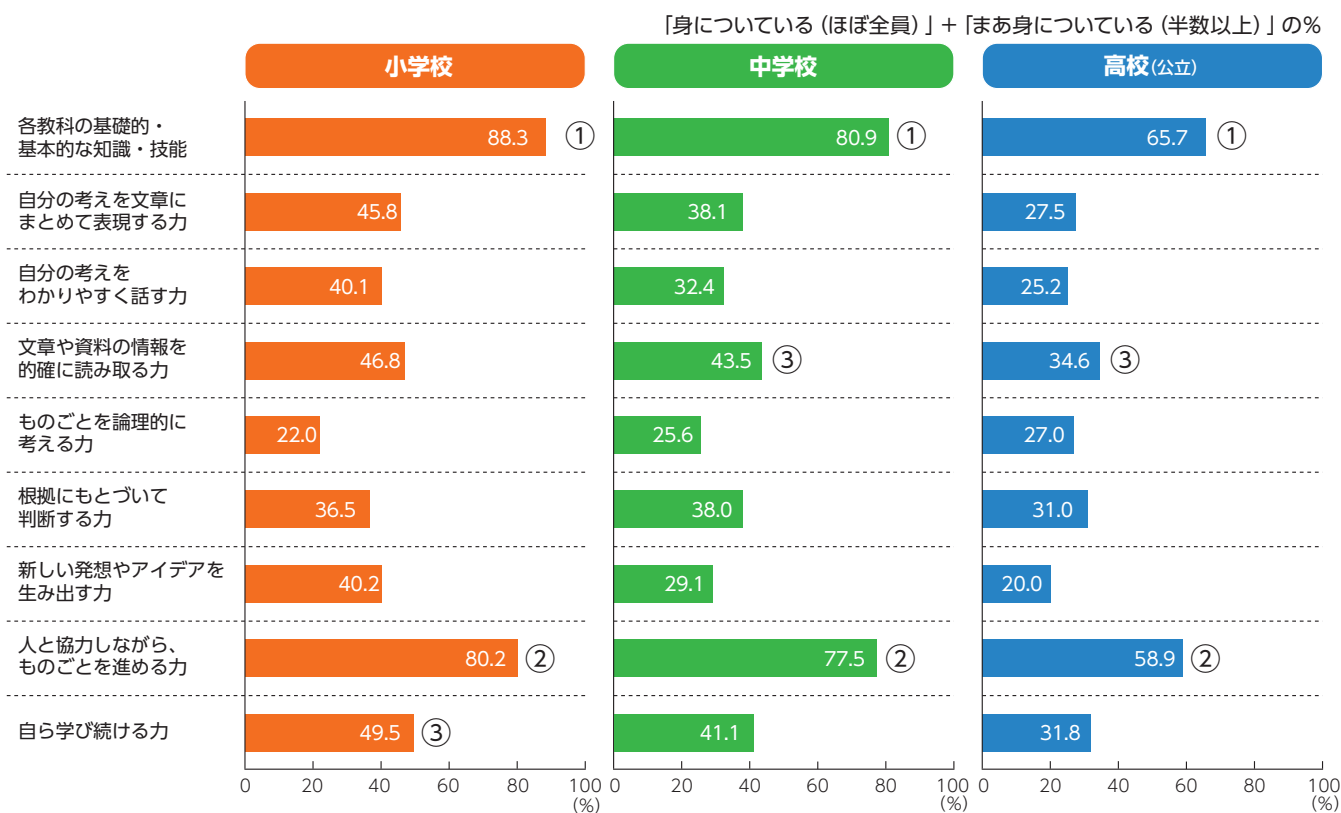
小・中学校では「ものごとを論理的に考える力」、高校では「新しい発想やアイデアを生み出す力」の評価が低い。

児童・生徒に「身につけている」(「身につけている」+「まあ身につけている」、以下同)と感じている力として高いのは、どの学校段階でも「各教科の基礎的・基本的な知識・技能」「人と協力しながら、ものごとを進める力」である。逆に評価が低いのは、小・中学校では「ものごとを論理的に考える力」、高校では「新しい発想やアイデアを生み出す力」であった。また、ほとんどの項目で、学校段階があがるにつれて「身につけている」との評価は各学校段階の求めるレベルが上がるのに応じて低くなる傾向がみられるが、「ものごとを論理的に考える力」のみわずかではあるが増加している。



あなたは、受け持ちの児童・生徒に関して、次のような力がどれくらい身につけていると思いますか。

図1-5 児童・生徒に身につけている力 **小学校** **中学校** **高校** **教員**



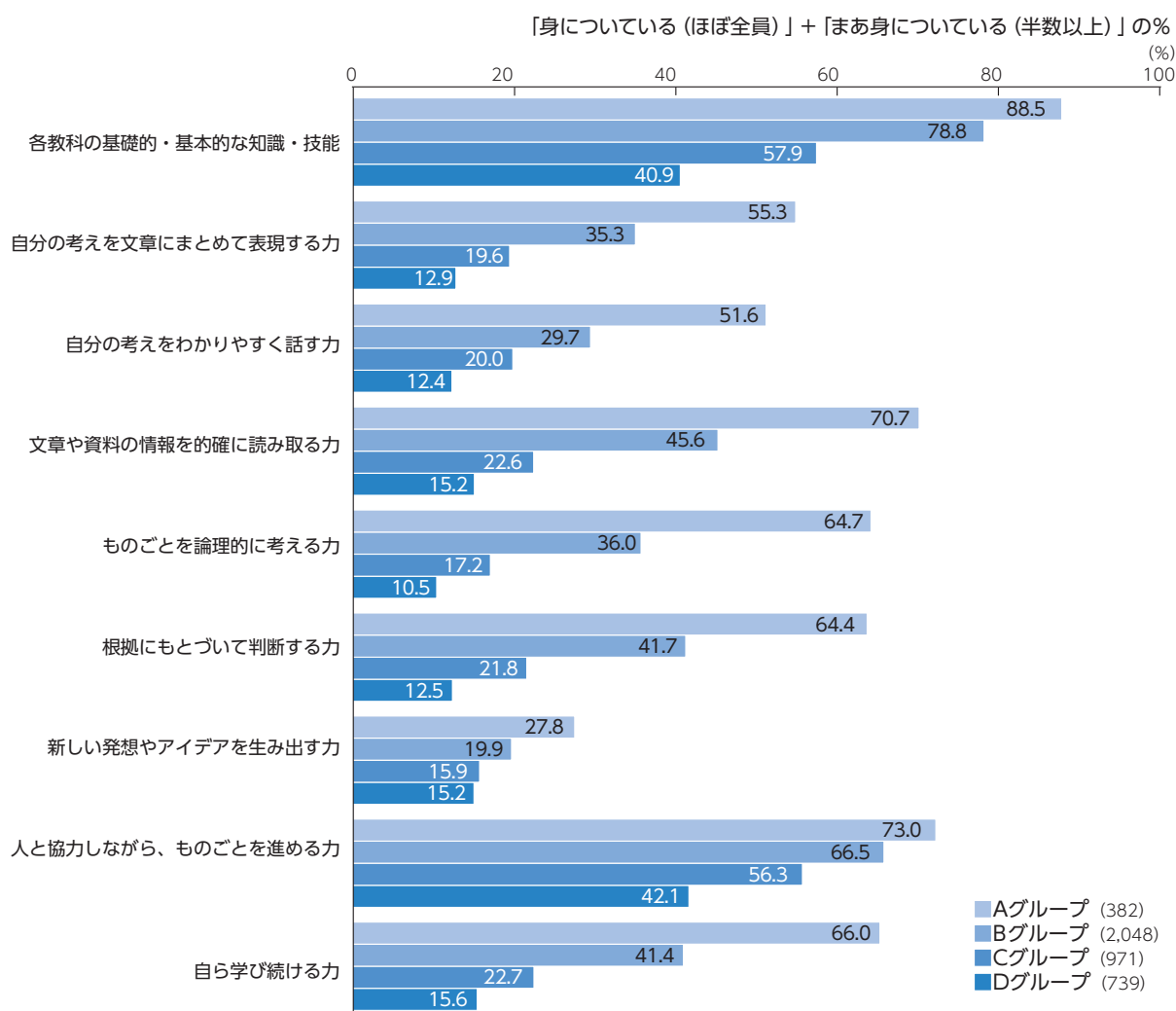
注1) 選択肢は「身につけている(ほぼ全員)」「まあ身につけている(半数以上)」「あまり身につけていない(半数以下)」「ほとんど身につけていない(一部児童・生徒のみ)」「わからない」の5択。

注2) 学校段階別に上位3位までを①~③と表示している。

学力層別に違いが大きいのは、「文章や資料の情報を的確に読み取る力」や「論理的に考える力」。

高校について身につけている力を入学時学力水準別(公立普通科)にみると、全般に学力層別の違いが大きく、学校によって指導の前提となる生徒の状況が大きく異なっていることがわかる。特に「文章や資料の情報を的確に読み取る力」「ものごとを論理的に考える力」「根拠にもとづいて判断する力」「自ら学び続ける力」などで違いが大きい。逆に、相対的に差異が少ないのは「新しい発想やアイデアを生み出す力」である。

図1-6 生徒に身につけている力(入学時学力水準別(公立普通科)) 高校 教員



注)入学時学力水準は、「貴校に入学した平均的な生徒の中学校時代の成績(評定平均)」に対する校長回答による。評定平均はAグループ: 4.5~5.0点、Bグループ: 3.5~4.0点、Cグループ: 3.0点、Dグループ: 1.0~2.5点として公立普通科について分類した。

1-3 児童・生徒に身につけさせたい力

「各教科の基礎的・基本的な知識・技能」や「自ら学び続ける力」が上位に。

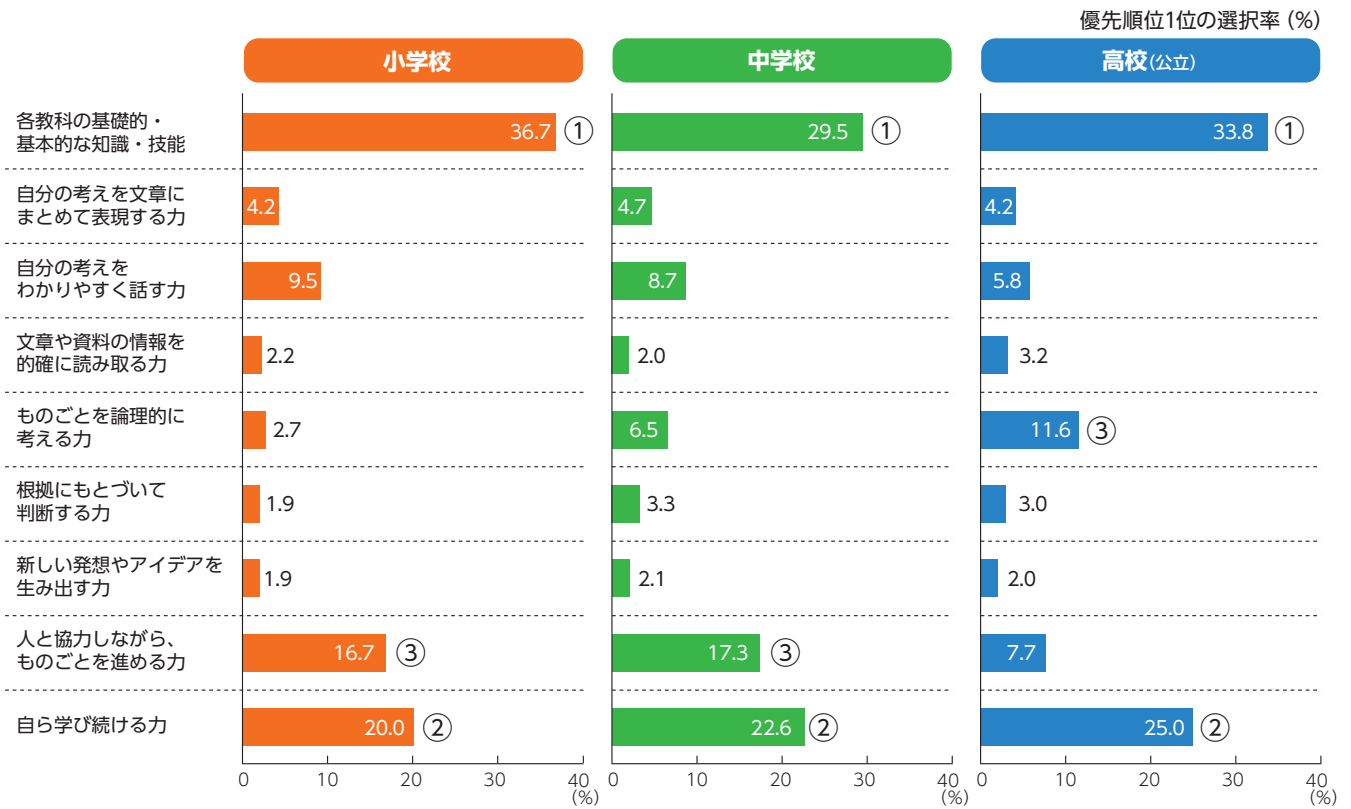
児童・生徒に「身につけさせたい力」の優先順位1位として挙げられたものは、小・中・高校とも「各教科の基礎的・基本的な知識・技能」がもっとも高く、次いで「自ら学び続ける力」である。3番目は小・中学校では「人と協力しながら、ものごとを進める力」、高校では「ものごとを論理的に考える力」となっている。

さらに、高校について入学時学力水準別(公立普通科)にみると、A・Bグループでは「自ら学び続ける力」がもっとも高く、C・Dグループでは「各教科の基礎的・基本的な知識・技能」がもっとも高い(表1-1)。

また、高校について、身につけさせたい力の優先順位1位～3位の全ての分布を示したのが表1-2である。1～3位を通してもっとも多く挙げられたのは、「自ら学び続ける力」、次いで「各教科の基礎的・基本的な知識・技能」「ものごとを論理的に考える力」の順であった。

Q あなたが児童・生徒に身につけさせたいと思っている力を、優先順位の高い順に3つ選んでください。

図1-7 身につけさせたい力(優先順位1位) **小学校** **中学校** **高校** **教員**



注) 学校段階別に上位3位までを①～③と表示している。

1-3 児童・生徒に身につけさせたい力

表1-1 身につけさせたい力<優先順位1位の上位5項目>(入学時学力水準別(公立普通科)) **高校** **教員**

		優先順位1位の選択率(%)							
		Aグループ (382)		Bグループ (2,048)		Cグループ (971)		Dグループ (739)	
1	自ら学び続ける力	27.2	30.0	35.5	41.5	26.2	28.7	25.3	17.6
2	各教科の基礎的・ 基本的な知識・技能	16.8	13.5	10.2	12.0	5.8	6.1	7.5	8.0
3	ものごとを論理的に 考える力	5.0	5.0	6.9	7.2	3.2	3.2	3.2	3.2
4	人と協力しながら、 ものごとを進める力	5.8	6.1	7.5	8.0	5.8	6.1	7.5	8.0
5	自分の考えをわかりや すく話す力	5.0	5.0	6.9	7.2	5.0	5.0	6.9	7.2

注)入学時学力水準は、「貴校に入学した平均的な生徒の中学校時代の成績(評定平均)」に対する校長回答による。評定平均はAグループ4.5～5.0点、Bグループ3.5～4.0点、Cグループ3.0点、Dグループ1.0～2.5点として公立普通科について分類した。

1位～3位全体でもっとも多く挙げられたのは「自ら学び続ける力」。

表1-2 身につけさせたい力<優先順位1位～3位>(公立全体) **高校** **教員**

	選択率(%)			
	優先順位 1位	優先順位 2位	優先順位 3位	1～3位計 (選択数計/教員数)
各教科の基礎的・基本的な知識・技能	33.8①	6.9	8.7	49.4②
自分の考えを文章にまとめて表現する力	4.2	8.3	7.5	20.0
自分の考えをわかりやすく話す力	5.8	11.6③	12.9	30.3
文章や資料の情報を的確に読み取る力	3.2	8.5	6.2	17.9
ものごとを論理的に考える力	11.6③	20.3①	13.0③	44.9③
根拠に基づいて判断する力	3.0	10.6	11.7	25.3
新しい発想やアイデアを生み出す力	2.0	4.2	5.9	12.1
人と協力しながら、ものごとを進める力	7.7	14.7②	13.2②	35.6
自ら学び続ける力	25.0②	11.0	17.1①	53.1①
無回答・不明	3.8	3.8	3.9	11.5

注1)優先順位1位・2位・3位別に選択率の上位3位までを①～③と表示している。

注2)優先順位1位～3位の%は、それぞれ高校公立全体の教員数6,436を分母としている。「1～3位計」は延べ選択数を全体の教員数6,436を分母として算出したもの。